

コード No. 18781

**Anti-Human
IRF-3 (Interferon Regulatory Factor-3) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : I型 Interferon (IFN)は、ウイルス感染等により伝えられるシグナルによって一過的に発現される液性因子であり、分泌された IFN は、細胞表面に存在する IFN 受容体への結合を介したシグナル伝達によって IFN 誘導遺伝子(ISG)と呼ばれる遺伝子群の発現を誘導し、それらの機能によって細胞に抗ウイルス作用がもたらされます。IFN 遺伝子を動かすシグナル伝達においては、IFN 遺伝子のプロモーター領域に存在する DNA 配列 (PRDI)に結合する転写因子として、IFN regulatory factor (IRF)ファミリーが知られています。しかし、少なくとも9つ存在することが報告されている IRF ファミリーのうち、IRF-3 という分子が、ウイルス感染によって誘導されるシグナルに深く関わっているらしいことが明らかにされています。IRF-3 は、ウイルス感染などの刺激によって強いリン酸化を受けて核内へ移行し、転写活性化因子として機能していることが報告されています。このリン酸化は IRF-3 kinase (IKK-i/ε, TBK-1)によって、386 番目のセリン残基に起こり、2量体化を誘導することが報告されています。

免疫抗原 : IRF-3 のアミノ酸 137 -150 部分合成ペプチド (EDILDELLGNMVL A)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色 1~5 µg/mL にて使用可能

使用方法 (ホルマリン固定 パラフィン包埋切片, 未処理)

: ウエスタンブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

: 免疫沈降法 1~5 µg/test にて使用可能

特異性 : ウエスタン・ブロッティングにて確認

参考文献 : 1. Iwamura T, Yoneyama M, Yamaguchi K, Suhara W, Mori W, Shiota K, Okabe Y, Namiki H, Fujita T. Induction of IRF-3/-7 kinase and NF-kappaB in response to double-stranded RNA and virus infection: common and unique pathways. *Genes Cells*. 2001 Apr; 6 (4): 375-88.
2. Suhara W, Yoneyama M, Iwamura T, Yoshimura S, Tamura K, Namiki H, Aimoto S, Fujita T. Analyses of virus-induced homomeric and heteromeric protein associations between IRF-3 and coactivator CBP/p300. *J Biochem (Tokyo)*. 2000 Aug; 128 (2): 301-7.
3. Mori M, Yoneyama M, Ito T, Takahashi K, Inagaki F, Fujita T. Identification of Ser-386 of interferon regulatory factor 3 as critical target for inducible phosphorylation that determines activation. *J Biol Chem*. 2004 Mar 12;279(11):9698-702